

ため池決壊について

2016年(平成28年)熊本地震や、2018年(平成30年)7月豪雨などの近年の災害において、ため池が相次いで決壊し、下流の地域で被害が発生しています。地震や大雨によって万が一ため池が決壊した場合に備えて、ため池による被害が予想される範囲や、避難方法を確認しましょう。

ため池氾濫が起こるのは？

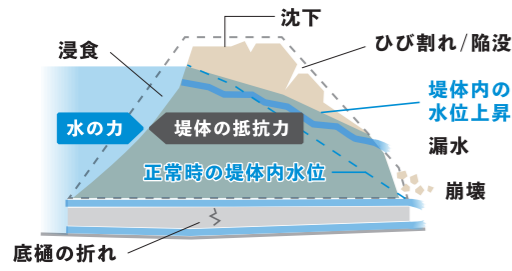
大雨や地震で堤体が破損(亀裂・漏水)し、破損した堤体が、貯水に耐え切れず決壊します。



集中豪雨や長雨、土砂災害や流木などによって、ため池の水位が上昇すると、堤体で漏水が起こったり、越水した水の勢いで堤体が浸食されて、ため池が決壊するおそれがあります。



地震による強い揺れによって、堤体に亀裂や陥没などが発生したり、地盤が液状化して、ため池が決壊することもあります。



ため池決壊による被害

河川の洪水と異なり一度に大量の水があふれ、短時間で洪水が下流に到達します。

大量の水や土砂が濁流となって同時に押し寄せます。



決壊地点直下の建物や車は押し流される可能性があります。



基本的に道路や住宅地、田畑は土砂に埋まります。



ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.26-65



知っていますか？

ため池決壊による、土砂災害

集中豪雨や短時間に激しく降る大雨によりため池の水位が上がったり、上流部での土砂災害による土砂の流入により、ある限界を超えると堤体が耐えられなくなり、ため池が決壊し下流域に甚大な被害を及ぼします。



雨に注意していますか？

土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険と思ったら、早めに避難しましょう。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。

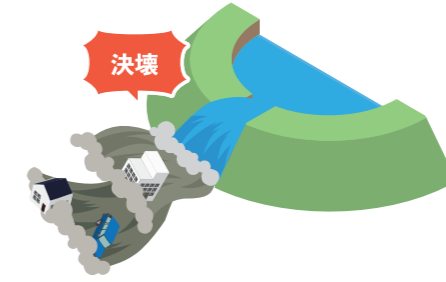


ため池決壊の起こり方

1 大地震や大雨による増水などで堤体に亀裂や漏水が発生する。



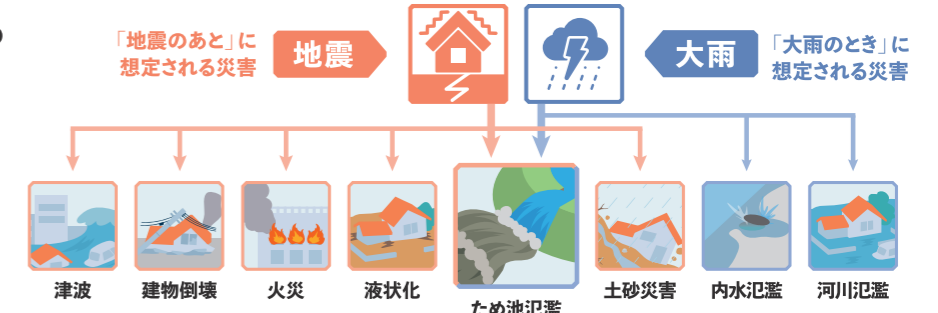
2 破損した堤体が貯水に耐え切れず決壊する。



ため池の直下では特に流速が速く水の勢いが強いので注意が必要です。

ため池決壊と同時発生するおそれがある災害

ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で様々な災害が発生していることが考えられます。ため池決壊と同時に注意が必要です。



こんなときは避難しましょう

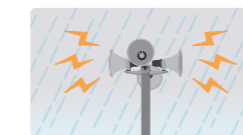
大規模な地震が発生したとき



集中豪雨や長雨が降り続いたとき



避難情報などが発令されたとき



ため池に亀裂や漏水などの異常を発見したとき



発見したらご連絡を!
農林水産課
TEL:65-1262

屋内安全確保

浸水がすでに起こってしまい、逃げ遅れた場合は建物内の高い場所へ避難

建物の2階以上の斜面とは反対側の部屋など、屋内の少しでも安全な場所へ避難しましょう。特に深い浸水が想定される場所では、危険なエリアから離れるか、近くの丈夫な建物の上階に避難しましょう。大雨が上がっても少なくとも一日は油断せず注意が必要です。



ため池ハザードマップも確認!

新居浜市ため池ハザードマップ

市では詳しい『ため池ハザードマップ』が整備されています。複数のため池が点在する地域では、自宅に被害を及ぼすおそれがあるため池を把握しておきましょう。

新居浜市公式ホームページ

<https://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/nouti/tameikemap.html>

